

世界の明日を創る グローバルトップレベルの 企業を目指して

取締役 代表執行役副社長
田井 一郎



東芝グループは、グローバル競争力を持った世界トップレベルの複合電機メーカーとなるべく、お客さまのニーズを先取りし、驚きや感動をお届けする世界初、世界No.1の商品・サービスの創出に取り組んでいます。デジタルプロダクト、電子デバイス、社会インフラ、及び家庭電器の四つの事業領域を中心に、更なる持続的成長を目指し、2009年6月から、新たにエネルギー、環境、ヘルスケア、ICT（情報通信技術）分野において、スマートグリッドや、二次電池、新照明システムなど九つの事業を推進しており、2010年も次々と新しい商品やサービスを世に送り出しました。

世界で初めて専用ガラスなしで3D映像が視聴できる液晶テレビ“ガラスレス3Dレグザ (REGZA)”を商品化しました。ここでは、3Dのインテグラルイメージング方式を実現する当社独自の高精細液晶製造や、高精度多視差変換、高画質3D映像処理、視域拡大、高度光学設計、2D3D変換などの技術が駆使されています。

また、最先端の24 nmプロセスを用いることで2ビット/セルの製品として世界最小のチップサイズを実現した“大容量64 Gビット（4値）NAND型フラッシュメモリ”の量産化を開始しました。

X線CT診断装置では、被ばく低減効果を持つ画像再構成技術や独自方式のDual Energyヘリカルスキャンを開発し、最高級機“Aquilion ONE™”及び高級実用機“Aquilion™ PRIME”に搭載することにより、低被ばくで新たな臨床価値を提供しています。

二次電池“SCiB™”はその卓越した急速充放電能力、長寿命、及び高い安全性により、本田技研工業(株)の電動二輪車に採用され、更に三菱自動車(株)の電気自動車用として共同研究が開始されるなど、活躍を始めました。このSCiB™は、離島マイクログリッドをリアルタイムで制御するシステムである沖縄電力(株)の宮古島メガソーラー実証研究設備にも使われています。更に、自然エネルギーの有効活用と電力の安定供給を目的とした“スマートグリッド”や“スマートコミュニティ”においてもSCiB™の技術を適用します。

発電時に二酸化炭素(CO₂)を排出しない“原子力発電”は、傘下のウェスチングハウス社が受注した中国の発電所4基の建設をはじめ、米国の発電所8基のエンジニアリングが順調に進んでおり、今後とも世界レベルでのエネルギーセキュリティ確保に貢献します。

東芝グループは、時代感覚と構想力に裏打ちされたイマジネーション(想像力)を豊かにし、グローバルレベルでの総合力を発揮して次々とイノベーションを起こしていきます。皆様のご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。